



和 ～心をつなぐ～

令和6年12月13日
第6号

相互理解

今回は新聞の投書欄に寄せられた高校生の声をもとに、異なる意見をもった者がお互いのことを理解するためにはどうしたらいいか考えてもらいました。【※ 裏面：放送内容】

☆ 1年生 ☆

- 自分の意見と異なる意見も受け入れ、相手の考えを理解したいと思いました。
- 普段の生活の中でも意見をぶつけ合って、納得する意見を出せるようにしたい。
- 小学校のときに「人の意見をしっかり聞こう。自分の意見も発表しつつ、違う部分があれば、友達が傷つかないように優しく話そう」と言われたこととつながった。これからも守っていききたい。
- 自分自身が根拠のある意見をもって前向きに進んでいきたい。
- 議論をしていくうえで、意見をぶつけ合うのではなく、考えの幅を広げよう、理解しようとする心が大切だと思う。積極的に話し合いに参加し、意味ある話し合いにしていきたい。

☆ 2年生 ☆

- 互いのことを理解するためには、自分のことばかり押し付けるのではなく、相手の話も聞いて、1つの考えとして受け入れることが大切だと思う。
- 自分と違う意見だったとしても自分なりに理解しようとするのが大事だと思う。
- 自分の意見を言わずに他人の意見に便乗しているだけなので、自分の意見を出せるようにしたい。
- それぞれの意見を聞いて、相手が何を言いたいのか、自分と異なる意見があるからこそ、その人の考えが分かって来るかもしれないし、お互いに理解し合うということがわかった。
- お互いのことを理解して、よりよい方向に進んでいくためには、自分の考えを述べないといけない。自分の考えを言うところからスタートしていきたい。

☆ 3年生 ☆

- 相手の意見を否定ばかりしたり、肯定ばかりしたりするのではなく、自分が伝えたいことをしっかり相手に伝えることができれば、いい話し合いになると思う。
- 意見が違う人の発表は、自分とは関係ないと思い聞いていない人がいるのではないかなと思う。
- 決めるときに違う意見が出て議論しあうことでより正確な答えになっていくと思う。
- 考え方の違う人が関わるとき互いに尊重し合うことでお互いの理解を深められることがわかった。
- 人数が少ないときは自分の意見を伝えることができるけれど、人数が多いところでは自分の意見を伝えられないことがある。

異なる意見、ぶつけ合う議論を

「異なる考えが多くて意見がまとまらない」。これは多様性が認められる現代ではよくあることだ。私も学校生活を通して、そんな状況にどう対処すれば、どんな結果が出るのかということを実験している。

しかし「異なる考えが多いと決まらないことから過半数を仲間で固めよう」とするところがある。日本の政党だ。今回の総選挙では与党が過半数を割り、「安定しないのでは」という声を聞く。だが、人々の考えが異なるのは当然で、それらをより多くの人々が納得するようにまとめるのが本来の話し合いの目的ではないのか。過半数集めが目的になれば、その後の話し合いは意味がなくなる。

私は今回の選挙結果は本来あるべき形だと思う。異なる考えを持つ者が話し合う場、つまり国会が最大限多くの人々が納得する方法を考えるという本来の姿になればいいと思う。

投書された内容は以上となります。

全校評議委員会や常任委員会で活発に意見を交わしている会がありますね。

一つの目標に向かってとれる手立ては無数にあります。どの方法がベストかというのは、意見が多いから良いのではなく、様々な意見の中から考えぬかれたものかもしれません。また、意見が違うからといって一切聞かないのではなく、相手が何を言いたいのか、自分の意見とどう異なるのか、言葉を尽くして話し合い、議論しあうからこそ、その人の考えや人となりが分かっていくことがあります。

多様性が認められる現代、異なる考えをもつ人と関り、意見がぶつかり合うことがあるかもしれません。そのような場面に出会ったとき、互いのことを理解し、よりよい方向に進んでいくためにはどのように対応するのがよいでしょうか。そのようなことも含め、感想に書いてください。

また、人権集会では自分の考えを伝える場があります。ぜひとも勇気をもって、自分の考えを伝えたり他の人の意見を聞いたりして、お互いの理解を深められる場になればと思います。

☆ 保護者の方からの感想 ☆ 10月「勇気」

- ・ 人生には大きな決断をしなければいけないときがあり、勇気が必要になります。シェイクスピアの言葉に「何もしなければ何も起こらない」という名言があります。人生でも種を蒔かなければ花は咲きません。勇気をもって何らかの行動を起こさなければいかなる結果も生み出しません。中学3年生には受験という大きな決断がありますが、“勇気”をもって自分を信じて花を咲かせてほしいと思います。
- ・ 「勇気のカンツメ」は結果として「単なる缶詰」だったかもしれないけれど、ヒントをもらえたチャンスと捉えて、何事にも自分の中でピンチをチャンスに切り替えできる“プラス思考”な考えで現代を生き抜く術を身に付けてほしいです。
- ・ 古代ギリシャの哲学者アリストテレスは「勇気とは無鉄砲と臆病のちょうど中間のことである。」と言っています。臆病すぎると勇敢な行動はとれないし、無謀なのも勇気とは違います。真の勇気とは少なくとも不安を感じつつも克服して行動することです。部活動の大会・テスト・受験等、中学生には勇気が必要となる時がたくさんあります。自分を信じてひとつひとつの壁を越えるよう、頑張ってください。

(紙面の都合上、感想の一部のみ掲載しています。ご了承ください。)